

琉球大学学術リポジトリ

食料消費の動向

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山里, 将晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19917

我々の栄養素を大きく分けると、熱量素と保素とにすることが出来る。これと同様に、作物を熱量作物と保素作物に大別出来る訳である。

地方が低下しているか、人口に対して耕地面積がせまい所では、熱量作物が優先され保素作物はあまり作られない傾向がある。従つて我々日本人の欠乏しがちなのは保素素であり、栽培面積の少ないのは保素作物であるといえよう。ここで熱量素と保素素について簡単に説明する必要がある。熱量素というのは、蛋白質、炭水化物、脂肪の事

食料消費の動向

一、はじめに

農林業が全経済に占める比重が小さくなりつつあることは、全世界の共通した傾向である。琉球もその例にもれず、農林業の比重は、年をおつて小さくなつてゐる。ところみに、国民所得からそれをみると、農林業者の所得が全国民所得に占める割合は、一九五五年で二五、八パーセント、五六年、五七年は、おのおの二一・二、一五・六パーセントとなつてゐる。これに比較して農林業に従事する可働労働者数は、毎年減少するのではなく、一九五五年度では全経済の可働労働人口の五三・一パーセントを占めてゐる。このことだけからしても、農林業に如何に多くの潜在失業者がたむろしているかがわかる。その実情を反影して、農林業に従事する人の一人あたり実質国民所得は非常に低いものである。これを一九五五年度の統計からみると第一次産業（農林水産業を含む）に

であり、主として熱量（カロリー）を供給するものことであり、保素素というのは蛋白質、ビタミン類ミネラル（無機物）、水のことであつて主として体成分を構成する栄養素である。（蛋白質は両方に入れられる）熱量素と保素素の間、熱量作物と保素作物の間にはつきりした境界線がある訳ではない。熱量作物でも品質の向上によつて、例えば蛋白質の含量を増すことによつてある程度保素素（又は作物）の役割を果し得ることになる。併しこれには限度があるので、地方の増進その他

従事する一人あたり実質国民所得は、約一・二六弗（一五一・B円）で第二次（鉱業、建設業、製造業等）第三次（卸小売業、金融保険業、運輸サービス業、公務員等）産業のそれは、おのおの三・三〇弗（三九五・B円）四・〇〇弗（四八一・B円）となつてゐる。即ち、第三次、第二次、第一次の産業の順に一人あたり実質国民所得が低くなつてゐる。このような農林業者の所得の相対的な低さの裏づけは一人あたり消費支出にも現れてゐる。（第一表参照）そこで、この農林業者の所得の低さを少しでも第二次、第三次の産業従事者の所得に近づけるようにするには、食料消費の動向を見究めて農業生産構造をこれに適應していくように改善し、経営の合理化をはかる事が要求される。かかる意味からして、ここで琉球における食料消費構成の動向を、大ざつぱではあるが観察してみたいと思ひます。この小論が、少しでも農業者並

農業に関するあらゆる知識を結集して収量の増加と農産物の品質向上によつて、熱量作物の面積をへらすことにより保素作物の栽培面積をふやし、ひいては我々の体位向上を期さねばならない。同時に生活の向上も望めるのではないかと思う。保素作物の中最も重要なものは豆科の飼料である。これによつて地方の増進が計られると共に良質のミルク、肉、卵等が生産されるからである。（おわり）（鎮西 忠茂）

第一表 (1) 世帯主の産業別一世帯一カ月当り家計総支出額よりみた食料構成 (1957年7月 - 12月平均)

	農 林 業	第二次産業	第三次産業
消費支出総額	3,929円	4,907.5円	5,303円
飲食費	2,420	2,759	2,743
(支出総額に占める割合)	(61.49%)	(56.21%)	(51.72%)
主食(米・其他)	1,246	1,038	926
(飲食費中に占める割合)	(51.49%)	(37.62)	(33.76)
非主食	1,158	1,627	1,688
(飲食費中に占める割合)	(47.85)	(58.97)	(61.54)

第一表 (2) 産業別就業者一人当り実質国民所得比較 単位B円

年 次	1952年	1953年	1954年	1955年
第一次産業	88.25円	114.23円	117.00円	151.0円
農林業	83.63	110.11	112.00	—
水産業	246.99	231.71	246.00	—
第二次産業	346.23	395.00	486.00	395.0
第三次産業	353.58	390.65	415.00	481.0

注、単位 (B円) は弗に換算すべきでしたが、それが出来なかつたことを深くお詫びします。

びに関係者の皆様の今後の計画に益する所がありましたら、幸いと存じます。

二、仮定

実質国民所得の如何は食料消費構成に最も大きく影響するものである。従つて、ここで取り上げたのは、一人あたり実質国民所得の変化が農産物の質的又は量的消費に、どんな変化をもたらしたか又、もたらしつつあるか、を究明したいと思つたのであるが、経済の変化は経済内部の事情だけから発生するのではなく、経済外的諸要素によつても左右されるので、将来を予測する事は、そう簡単にはいかないでしょう。従つて、こゝでなし得るすべては、過去の資料にもとづいて分析し、一般的動向をつかみ、この動向は将来も続くであろうとの仮定に立つて論をすすめる以外に方法はない。さて、B円が弗に切り換えられて以来、すべての人々の注目のまゝになつてゐることは、果して弗への切り換えは、一人当たり国民所得を増やし、生活がより楽なものになるか、という事でしょう。これについては、一時、新聞紙上等で盛んに論ぜられたのであるが、各自の異なつた仮定の下に異なつた判断をしておられるので、いずれの論が正しいか、というのは簡単にいきれぬ筋のものではない。しかし、特に弗に切り換えられたというでもないでしょうが、政府も生活水準の高揚を叫び、且つ、その線にそつて政策が実施されてゐるらしいので、一人あたり所得は、特別な経済変動がない限り、増えるのではないか、と思ふ。この仮定の下では、これから述べようとする食料消費構成の高度化の動向は今後も進むであろうとの論が成立する訳である。

それではこの辺で、過去における一人あたり実質国民所得と食料消費構成の関係を考察してみましよう。

(注、食料消費構成に影響する要素は所得以外に国民の習慣、嗜好、教育程度等ありますが、所得の影響が最も注目すべき要素であるという訳です。)(CFFV) (山里将晃)

写真や図を中心にみる

琉球の農作物主要病害虫

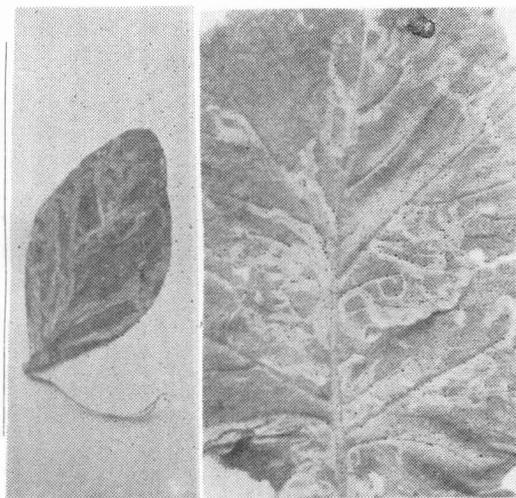
害虫

(3)

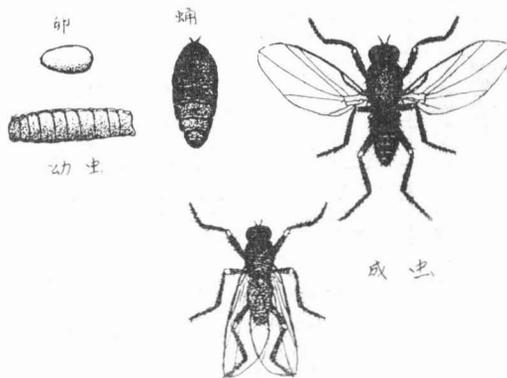
ナモグリバエ(エンドウのハモグリバエ)

形態 成虫は、体長二—二、五ミリ、体は一様に灰色、頭部は黄色あるいは灰黄色、脚は黒色、各脚のヒザ部は黄色。

幼虫は、体長約三ミリ、乳白色、脚を欠く。



右、ダイコンの被害葉
左、エンドウの被害葉
下、ナモグリバエ



加害 幼虫はエンドウ、カンラン、ハクサイ、ダイコンなどの葉にもぐつて食害し、琉球では一月から四、五月頃にかけて多く発生する。

防除

- 一、マラソンの二〇〇〇倍液。
 - 一、E.P.Nの一五〇〇倍液。
 - 一、パラチオンを使うなら二〇〇〇倍液。
- などを散布すると効果がある (田盛正雄)

発行所 琉球大学農家政工学部
発行人 島袋俊一
印刷 沖繩タイムス社

指令第一九八〇号

一九五九年一月二五日印刷
一九五九年二月一日発行